



**ASR コンテキスト管理用**

**L&Hオートメーション ツール**

**リファレンス ガイド**

**Lernout & Hauspie Speech Products NV**  
**Flanders Language Valley 50**  
**B-8900 Ieper, Belgium**  
**Phone: +32 57 22 8888 Fax: +32 57 20 8489**

**著作権情報**

(C) Lernout & Hauspie Speech Products N.V.  
Document No. D92751-21-00 L&H オートメーション ツール  
リファレンス ガイド  
V1.00 © - November 1999

この文書の一部または全部を L&H の書面による許可なく、光学複写、録音、情報検索システムを含め、形式や電子的または機械的方式にかかわらず、再製造や変換を行うことは禁じられています。

---

---

# 目 次

用途 .....	1
機能 .....	3
はじめに .....	4
asrbatchtool.ini .....	5
セクション .....	5
例 .....	6
コマンドと使用法 .....	7
コマンド リファレンス .....	7
Import .....	8
Export .....	10
Install .....	12
MakeInstall .....	13
MergeDict .....	14
ExtractDict .....	15
SaveDictList .....	16

---

## 用途

ASR コンテキスト管理用 L&H オートメーション ツールは、コマンドラインから実行するプログラムで、これにより ASRAPI データベースにおける基本的な管理操作を行うことができます。

これらのコマンドライン プログラムを使用すると、次の操作が行えます。

- 1つのアプリケーションを複数の環境で実行する場合のコンテキストの開発。  
ASRAPI データベース中のデータは、容易に異なるマシンへ移植できます。
- ASRAPI データベースからのデータの抽出 (用途: アーカイブ、アプリケーションのソースコードと共に保存、またはバージョンコントロールシステムの管理下での保存)。
- 埋め込みシステムのエンジンに適したコンテキスト バイナリの自動作成。これにより、バイナリの .ctx ファイルの作成を makefile に組み込むことができます。

---

---

## 機能

次の機能が用意されています。

- L&H バイナリ エクスポート フォーマットでのコンテキストのインポートとエクスポート。  
このフォーマットを使用して、LexTool で作成や編集を行ったコンテキストをバイナリ フォーマットで保存できます (人間には判読できないフォーマットです)。
- BNF の ASR コンテキストへのインポート。コンパイル時に使用する例外辞書を指定できます。
- バイナリ フォーマットの辞書の ASRAPI データベースへのインストールと ASRAPI データベースからの抽出。
- コンテキストの ASR1602 フォーマットへのエクスポート。
- 辞書のマージと分割。
- ASRAPI データベース中に現在存在するオブジェクトに関する情報の一覧表示。

### **注意：**

ツールを使用すると、複数の ASR エンジンがインストールされているシステムで使用可能な ASR データベースと ASR エンジン指定できます。

## はじめに

1 つの実行モジュールによってすべての処理が実行されます。いくつかの処理が簡単に行えるように複数のバッチ ファイルが用意されています。

実行モジュールの名前は asrbatchtool.exe です。基本の動作モードを次に示します。

*asrbatchtool <command> [VariableSpecification...]*

command には、次の値が指定可能です。

<b>Import</b>	コンテキストを ASRAPI データベースにインポートします。
<b>Export</b>	ASRAPI データベースからコンテキストをバイナリ フォーマットでエクスポートします。
<b>Install</b>	コンテキスト、ユーザー、または辞書をデータベースにインストールします。
<b>MakeInstall</b>	ASRAPI コンテキスト、ユーザー、または辞書のインストール ファイル (ディレクトリ) を作成します。
<b>MergeDict</b>	2 つの辞書を 1 つにマージします。
<b>ExtractDict</b>	辞書の一部を抽出して小さな辞書を作成します。
<b>SaveDictList</b>	辞書の単語をテキスト ファイルに保存します。

各コマンドの変数は、asrbatchtool.ini ファイルかコマンド ラインで指定できます (コマンド ラインでの指定が優先されます)。それを引数ではなく変数と呼びます。なぜなら、コマンド ラインで指定する順序が重要ではないからです。

### 注意：

asrbatchtool.ini ファイルは、MS Windows スタイルの .ini ファイルです。ANSI またはマルチバイト コードでなければなりません。unicode の .ini ファイルはサポートされていません。

-D<変数>=<値> を追加することで、コマンド ラインで変数を指定できます。各コマンドには複数の変数が必要です。コマンドで使用する変数については以下の「コマンドと使用法」の節を参照してください。

この方法ですべての変数を完全に制御できますが、.ini ファイル内で静的変数をいくつか指定しておくとかコマンド ライン上での変数の指定を少なくできます。

asrbatchtool のコマンド ラインの例を次に示します。

Asrbatchtool makeinstall -DType=context -DUser=fv -DName=isdjeida -DDestDir=f:\test

また、asrbatchtool ベースのバッチ ファイル (.bat) を作成して、頻繁に行う作業を容易にすることも、簡単に行えます。

AsrMakeInstallCtx isdjeida f:\test fv

このコマンドのルック アンド フィールドは、より古典的なバッチ ファイルのものです。



# asrbatchtool.ini

## セクション

### [Engine] セクション

このセクションで、asrbatchtool コマンドで使用する変数とその値を指定できます。このセクションの行の構文は、<変数>=<値> です。変数自身は大/小文字の区別がありませんが、値は大/小文字の区別があります。

### [Aliases] セクション

.ini ファイルの [Aliases] セクションでは、コマンドラインで使用する文字列変数の略称を指定します。[Aliases] セクションに別名を指定しておくと、[Engine] セクションで指定するすべての文字列変数 (数値変数ではありません) を別名で置きかえることができます。

例：     v3.2=asr3232.dll  
          bufexp1602="ASR1602 Buffer Export"  
          bnf="BNF Grammar Compiler"

こうしておくと、コマンドライン上で -dformat=bnf といった指定が可能です。別名自身は大/小文字の区別がありませんが、別名の値は大/小文字の区別があります。

### [Tool] セクション

.ini ファイルの [Tool] セクションではツール変数を指定します。これらの変数の使い方はエンジン変数と同じですが、これらはすべてのコマンドに適用されます。ツール変数の一覧とその動作を次に示します。

TOOLSHOWUSAGEINWINDOW	このブール変数が1に設定されている場合、引数が指定されないとき使用方法を示すダイアログボックスが表示されます。 デフォルト値: 0
TOOLSHOWSTATUSONSUCCESS	動作が正常に実行されたときに、ステータスメッセージをツールからコンソール上に表示させたい場合、このブール変数を1に設定します。 デフォルト値: 0
TOOLLANG	ツールの言語。 このパラメータはエラーメッセージと使用情報に対して適用されます。 現在、enu (米英語) または jpj (日本語) が使用可能です。

## 例

これは、asrbatchtool.ini とコマンド ライン命令の例です。

### Asrbatchtool.ini

```
[Engine]
AsrDll=asr3232.dll
DbName="ASR1602 - Office"
User=Generic
AutoCreateUser=1

[Tool]
ToolLang=enu
ToolShowUsageInWindow=1
ToolShowStatusOnSuccess=1

[Aliases]
v3.2=asr3232.dll
v3.2b=asr3232b.dll

bnf="BNF Grammar Compiler"
binimp="L&H Binary Import"
binexp="L&H Binary Export"
exp1602="ASR1602 Export"
bufexp1602="ASR1602 Buffer Export"
jpj="Nihongo"
enu="American English"
```

### Command

```
Asrbatchtool makeinstall -Duser="Jim Smith" -DName=isd -DDestDir=a:\isd
```

### **注意：**

次のルールを適用すると良いでしょう。

- Asrbatchtool.ini には、頻繁に更新しない固定的な変数を保存する。
- 頻繁に変更し柔軟性が必要なものは、コマンド ラインの引数にする。

# コマンドと使用法

## コマンド リファレンス

ここでは、すべてのコマンドとその変数をすべて説明しています。

**注意：**

変数が任意指定の場合は角括弧 [ ] で囲んでいます。

## Import

### 説明

このコマンドは、コンテキストを ASRAPI データベースにインポートします。

インポート可能なソースを次に示します。

バイナリ フォーマット: 以前に Export 機能を使用してエクスポートしたバイナリ コンテキストをインポートできます。

BNF ファイル: コンテキスト用のソース ファイル (人間が判読できる形式) です。このインポート機能を利用すると開発プロセスの自動化が可能です。

### 変数

ASRDLL	ASR DLL のファイル名。
DBNAME	データベース名 (1 つのエンジンに 1 つ以上のデータベースを含めることができます)。
FORMAT	インポートするフォーマット。
USER	コンテキストを所有するユーザー名。
LANG	Import の対象となる文法/ファイルを記述している言語。
DICTIONARY	インポート (コンパイル) に使用する辞書。
SOURCE	インポートするソース ファイル。
CONTEXT	新規コンテキスト名。
OPTIONS	その他のオプション。
[AUTOCREATEUSER]	ユーザーの作成と言語の登録が行われていない場合に、それを行うかどうかを決定するブール変数。 デフォルトでは使用可能です。
[DELETECONTEXTFIRST]	インポート前にコンテキストを削除するかどうかを決定するブール変数。他の言語で存在するコンテキストを上書きする必要があります。 デフォルトでは使用不可です。

### コメント

AsrBatchTool アプリケーションでインポートやエクスポートを行う場合は、フォーマットを指定する必要があります。このフォーマット文字列で、インポートするタイプ (またはエクスポートするタイプ) を指定します。これらのインポートやエクスポートのタイプは、ASRAPI エンジンのプラグインとしてインストールされます。そのため、特定のマシンに何がインストールされているかによって、使用可能なフォーマットは異なります。使用可能なタイプを表示するには AsrInfo ツールを使用します。AsrInfo では 4 種類のフ

フォーマットが表示可能です。4 種類のフォーマットは、それぞれ 1 つの ASR API SDK 関数に対応します。

'Grammar formats'	= ファイルからのグラマーのコンパイル (asrCtxCompileGrammar)
'Export formats'	= コンテキストのファイルへのエクスポート (asrCtxExport)
'Import buffer formats'	= バッファからのコンテキストのインポート (asrCtxImportBuf)
'Export buffer formats'	= コンテキストのバッファへのエクスポート (asrCtxExportBuf)

コマンド ラインで指定したパラメータに従って、AsrBatchTool によってこれらの関数の 1 つが使用されます。

これらの 4 つの関数のうちの 3 つが AsrbatchTool でサポートされています。

'Grammar formats'	= インポート
'Export buffer formats'	= エクスポート
'Export formats'	= サブフォーマットのエクスポート=UI

これら 3 つのいずれの場合でも、フォーマット パラメータは AsrInfo リストに表示される文字列である必要があります。

たとえば、コマンド ラインは次のようになります。

```
AsrBatchTool import -Dformat="BNF Grammar Compiler" ...
```

これは、"BNF Grammar Compiler" は 'Grammar formats' の取りうる値の 1 つだからです。

#### **注意：**

インストールされている ASR のバージョンによって、同一のフォーマットのタイプでもフォーマット文字列が異なることもあります。

## Export

### 説明

このコマンドは、ASRAPI データベースから次のフォーマットのいずれかで、コンテキストをエクスポートします。

ASR1602 フォーマット: コンテキストをこのフォーマットでエクスポートします。このバイナリ フォーマットは埋め込みシステムに適しています。これによりターゲットのバイナリを自動的に作成できます。

バイナリ フォーマット: コンテキストを L&H バイナリ フォーマットで保存します。これは ASRAPI データベースからコンテキストを 1 つのバイナリ ファイルにエクスポートします。バイナリ ファイルは、バージョン コントロール用として使用できます。

### 変数

ASRDLL	ASR DLL のファイル名。
DBNAME	データベース名 (1 つのエンジンに 1 つ以上のデータベースを含めることができます)。
USER	コンテキストを所有するユーザー。
CONTEXT	コンテキストの ASRAPI データベース名。
FORMAT	エクスポートするフォーマット。
[SUBFORMAT]	使用するエクスポート関数を指定します。この変数で <i>asrCtxExport</i> と <i>asrCtxExportBuf</i> のどちらを使用するかを内部的に決定します。これらの関数に対する有効なフォーマットは、 <i>asrinfo</i> プログラムで表示することができます。この変数は任意で、「UI」に設定すると <i>asrCtxExport</i> 関数を使用できます (デフォルトは <i>asrCtxExportBuf</i> です)。UI (ユーザー インタフェース) を指定すると、バッチ ツールによって出力ファイルを指定するためのダイアログ ボックスが表示されます。「UI」を指定しない場合は、次に指定したパラメータが使用されます。
DESTFILE	出力先のファイル名。 <i>SPLITCTXBIN</i> が 1 に設定されていない場合は、これは .ctx と .wcl が含まれる ASR1600V2 エクスポート タイプのバイナリになります。拡張子には .bin を使用します。
[SPLITCTXBIN]	ブール変数でデフォルトは 0 です。 この変数を 1 に設定すると、エクスポート操作の出力は .ctx と .wcl ファイルになります。.ctx と .wcl に直接エクスポートする場合は、.ctx 名を DESTFILE パラメータで (拡張子付きで) 指定します。プログラムによって、同一のディレクトリ内の同一の基本名を持つ .wcl ファイルに書き込まれます。このパラメータは "ASR1602 Buffer Export" フォーマットでのみ有効です。
OPTIONS	その他のオプション。

## コメント

AsrBatchTool アプリケーションでインポートやエクスポートを行う場合は、フォーマットを指定する必要があります。このフォーマット文字列で、インポートするタイプ (またはエクスポートするタイプ) を指定します。これらのインポートやエクスポートのタイプは、ASRAPAPI エンジンのプラグインとしてインストールされます。そのため、特定のマシンに何がインストールされているかによって、使用可能なフォーマットは異なります。使用可能なタイプを表示するには AsrInfo ツールを使用します。AsrInfo では 4 種類のフォーマットが表示可能です。4 種類のフォーマットは、それぞれ 1 つの ASRAPAPI SDK 関数に適用されます。

'Grammar formats'	= ファイルからの文法のコンパイル (asrCtxCompileGrammar)
'Export formats'	= コンテキストのファイルへのエクスポート (asrCtxExport)
'Import buffer formats'	= バッファからのコンテキストのインポート (asrCtxImportBuf)
'Export buffer formats'	= コンテキストのバッファへのエクスポート (asrCtxExportBuf)

コマンド ラインで指定したパラメータに従って、AsrBatchTool によってこれらの関数の 1 つが使用されます。

これらの 4 つの関数のうちの 3 つが AsrbatchTool でサポートされています。

'Grammar formats'	= インポート
'Export buffer formats'	= エクスポート
'Export formats'	= サブフォーマットのエクスポート=UI

これら 3 つのいずれの場合でも、フォーマット パラメータは AsrInfo リストに表示される文字列である必要があります。

たとえば、コマンド ラインは次のようになります。

```
AsrBatchTool export -Dformat=" ASR1602 Buffer Export" ...
```

これは、"ASR1602 Buffer Export" は "Export buffer formats" の取りうる値の 1 つだからです。

### 注意：

インストールされている ASR のバージョンによって、同一のフォーマットのタイプでもフォーマット文字列が異なることもあります。

## Install

### 説明

このコマンドは、コンテキスト、ユーザー、または辞書を ASRAPI データベースにインストールします。

これは、あるマシンのデータベースを別のマシンで再作成する場合に適しています。

**MakeInstall** で作成した .stp ファイルを指定する必要があります。

### 変数

ASRDLL	ASR DLL のファイル名。
DBNAME	データベース名 (1 つのエンジンに 1 つ以上のデータベースを含めることができます)。
SETUPFILE	インストールする .stp 名。 この操作を成功させるには、.stp ファイルのディレクトリを (絶対または相対で) 指定する必要があります。 例: -dsetupfile=test.stp は失敗しますが、 -dsetupfile=.\test.stp は成功します。



## MakeInstall

### 説明

このコマンドは、既存の ASRAPI データベース オブジェクト (ユーザー、辞書、またはコンテキスト) からインストール ディレクトリを作成します。  
このバイナリ データは、バックアップ用や他の PC でのインポート用としてアーカイブできます。

### 変数

ASRDLL	ASR DLL のファイル名。
DBNAME	データベース名 (1 つのエンジンに 1 つ以上のデータベースを含めることができます)。
TYPE	データベースから何を抽出するかを指定します。context、user、または dictionary が指定可能です。
LANG	ユーザーや辞書の ASR の言語。 (TYPE が user か dictionary の場合。)
USER	コンテキストを所有するユーザー。 (TYPE が context の場合。)
NAME	インストールを作成する名前。コンテキスト、ユーザー、または辞書。
DESTDIR	インストール ファイルの出力先ディレクトリ (1 つの .stp と 1 つのディレクトリ)

## MergeDict

### 説明

このコマンドは、2 つの辞書を 1 つにマージします。2 つのソース辞書は ASRAPI データベースの辞書です。

### 変数

ASRDLL	ASR DLL のファイル名。
DBNAME	データベース名 (1 つのエンジンに 1 つ以上のデータベースを含めることができます)。
LANG	辞書の言語。同一の言語の辞書間でのみマージが可能です。
DICT1	1 つめのソース辞書。
DICT2	2 つめのソース辞書。
DESTDICT	出力先の辞書 (マージ後の辞書)。

## ExtractDict

### 説明

このコマンドは、ソース辞書から抽出する必要がある単語が含まれるテキスト ファイルに基づいて、辞書の一部を抽出し、新規の ASRAPI データベース辞書に保存します。

### 変数

ASRDLL	ASR DLL のファイル名。
DBNAME	データベース名 (1 つのエンジンに 1 つ以上のデータベースを含めることができます)。
LANG	辞書の言語。同一の言語の辞書間でのみマージが可能です。
DICT	1 つめのソース辞書。
WORDLIST	DICT の辞書の一部で、抽出して別の辞書に保存する単語のリストが含まれるテキスト ファイル名。このテキスト ファイルは <b>SaveDictList</b> コマンドで作成できます。
DESTDICT	出力先の辞書 (部分的な辞書)。

## SaveDictList

### 説明

このコマンドは、辞書に存在する単語をテキスト ファイルに保存します。 この出力は **ExtractDict** コマンドで使用できます。

### 変数

ASRDLL	ASR DLL のファイル名。
DBNAME	データベース名 (1 つのエンジンに 1 つ以上のデータベースを含めることができます)。
LANG	辞書の言語。 辞書は常にある言語に属します。 言語ごとの ASRAPI 辞書は <i>asrinfo</i> プログラムで表示できます。
DICT	ASRAPI 辞書名。
WORDLIST	辞書の単語が含まれる出力テキスト ファイル名。 このテキスト ファイルは <b>ExtractDict</b> コマンドで使用できます。